



## センチュリーライドを走る会

246-0013 横浜市瀬谷区相沢1-31-4 平本方

メール daiou@marv.mediatti.net

電話 090-8311-4085(事務局携帯)

WEB [www.marv.mediatti.net/~daiou/](http://www.marv.mediatti.net/~daiou/)

センチュリーライドやサイクルマラソンなど、自転車長距離走の愛好者団体「センチュリーライドを走る会」(創立1995年、会員数130人)では、日本全国の各地支部主催で年間25回程度、「センチュリーライド練習会」を開催しております。

このたび、1999年から2001年にかけて岐阜県の青年団主催で開催され、その後惜しまれつつも廃止となった「名古屋～金沢 さくら道ネイチャーサイクリング(1泊2日 250km)」を復活させ、30人余の参加者がみごと「名古屋城～金沢兼六園」250kmを完走しましたので、お知らせします。

### ●行事概要

1 期 日 2007年(平成19年)4月21日(土)～22日(日)

2 コース 名古屋城(名城公園)～金沢兼六園(佐藤桜)

1日目 名古屋(9:00発)～岐阜～関～郡上八幡～北濃～ひるがの高原(泊)

2日目 ひるがの高原(7:00発)～御母衣ダム～莊川桜～合掌造り白川郷～五箇山トンネル～福光～金沢(15:00着、入浴あり)

3 宿 泊 ひるがの高原民宿

4 参加資格 センチュリーライド完走経験のある方、または同等の大会の完走経験者

5 参加人数 34人

内訳＝会員20人、一般14人

6 実施趣旨 「この地球の上に、天の川のような美しい花の星座をつくりたい。花を見る心がひとつになって人々が仲良く暮らせるようになりたい。」こう考え、日本海と太平洋を桜の道でつなごうと、桜を植え続けた、故佐藤良二氏(名古屋市と金沢市を結ぶ国鉄名金線バスの車掌さんでした)の夢の道を、自転車でたどろうという練習会。

7 魅 力 初夏の名古屋を出発し、岐阜を経て長良川沿いをさかのぼる。季節は初夏から徐々に春、そして早春に戻り、沿道の満開の桜と鯉のぼりがサイクリストを迎える。宿泊地は太平洋と日本海の分水嶺である「ひるがの高原」。名古屋に比べて、季節はおよそ2か月戻る。

2日目は雨。残雪の飛騨の山並みを望みつつ、御母衣ダム湖畔の莊川桜へ。さらに、合掌造りの白川郷、越中五箇山へと庄川沿いを下る。残雪の白山が神々しい姿を覗かせる。五箇山峠の長いトンネルを抜けて砺波平野に下ると、再び季節は2か月進んで一気に初夏へ戻る。

県境を越えるとやがて終点の金沢。雨の中、兼六園の佐藤桜が、長旅を終えたサイクリストを静かに歓迎してくれた。

8 備 考 過去の大会同様、安全確保と参加者の心を一つにするため「ピンク色のビブス(写真参照)」をまとめて走った。



1日目 名古屋城を出発



2日目 庄川桜の前で



ひたすら金沢へ



ついたぜ 兼六園 佐藤桜の前で